図説日本の古典

第1巻／古事記	武蔵大学教授 神田秀夫	奈良国立文化財研究所長 坪井清足	学習院大学教授 黛 弘道	
第2巻／萬葉集	筑波大学教授 伊藤 博	成城大学教授 上原 和	学習院大学教授 黛 弘道	
第3巻／日本霊異記	琉球大学教授 小島瓔禮	奈良国立博物館 上原昭一	東京大学助教授 笹山晴生	
第4巻／古今集・新古今集	東京大学助教授 久保田 淳	美術史家 白畑よし	聖心女子大学教授 目崎徳衛	
第5巻／竹取物語・伊勢物語	大阪女子大学教授 片桐洋一	大谷女子大学教授 伊藤敏子	聖心女子大学教授 目崎徳衛	
第6巻／蜻蛉日記・枕草子	明治大学教授 木村正中	美術史家 白畑よし	東京大学教授 土田直鎮	
第7巻／源氏物語	東京大学教授 秋山 虔	東京大学教授 秋山光和	東京大学教授 土田直鎮	
第8巻／今昔物語	早稲田大学教授 国東文麿	美術史家 梅津次郎	京都女子大学教授 村井康彦	
第9巻／平家物語	神戸大学名誉教授 永積安明	大阪大学教授 武田恒夫	京都大学教授 上横手雅敬	
第10巻／方丈記・徒然草	お茶の水女子大学助教授 三木紀人	東京国立文化財研究所 宮 次男	東京大学助教授 益田 宗	
第11巻／太平記	早稲田大学教授 梶原正昭	東京国立文化財研究所 宮 次男	京都大学教授 上横手雅敬	
第12巻／能・狂言	東京大学教授 小山弘志	京都国立博物館 切畑 健	大阪市立大学教授 原田伴彦	
第13巻／御伽草子	国文学研究資料館長 市古貞次	東京国立博物館 高崎富士彦	東北大学名誉教授 豊田 武	
第14巻／芭蕉・蕪村	福岡大学教授 白石悌三	文化庁 佐々木丞平	学習院大学長 児玉幸多	
第15巻／井原西鶴	埼玉大学教授 長谷川 強	東京大学教授 山根有三	学習院大学長 児玉幸多	
第16巻／近松門左衛門	学習院女子短期大学教授 諏訪春雄	大阪大学助教授 信多純一	横浜市立大学教授 辻 達也	
第17巻／上田秋成	国文学研究資料館教授 松田 修	東京国立文化財研究所 河野元昭	学習院大学教授 大石慎三郎	
第18巻／京伝・一九・春水	早稲田大学教授 神保五弥	名古屋大学助教授 小林 忠	立正大学教授 北原 進	
第19巻／曲亭馬琴	明治大学教授 水野 稔	国立国会図書館 鈴木重三	東京学芸大学助教授 竹内 誠	
第20巻／歌舞伎十八番	早稲田大学教授 郡司正勝	名古屋大学助教授 小林 忠	成城大学教授 西山松之助	

図説 日本の古典1　古事記
昭和53年11月20日　初版第1刷印刷
昭和53年12月4日　初版第1刷発行
著者代表――神田秀夫　©1978
発行者――堀内末男
発行所――株式会社 集英社
東京都千代田区一ツ橋2-5-10
電話―販売部　東京(03)238―2781
出版部　東京(03)230―6351
振替―15653／郵便番号101

印刷所――大日本印刷株式会社
用紙／カラー　王子製紙株式会社
モノクロ　日本パルプ工業株式会社
製本　中央精版印刷株式会社
文勇堂製本工業株式会社

製本には十分注意していますが，落丁・乱丁の際は
おとりかえいたします。
0391-167001-3041
Printed in Japan

古事記

集英社

図説日本の古典—1

〈企画委員〉
東京大学教授　秋山　虔
国文学研究資料館長　市古貞次
学習院大学長　児玉幸多
早稲田大学教授　神保五弥
東京大学教授　山根有三

〈第一巻・編集委員〉
武蔵大学教授　神田秀夫
奈良国立文化財研究所長　坪井清足
学習院大学教授　黛　弘道

目次●

●カラー図版●春瑜本『古事記』／伊勢神宮／家の埴輪／家屋文鏡／五色塚と淡路島／珍敷塚古墳壁画／宍道湖／佐陀神能／出雲大社／八重垣神社／「すさのをの命」と「くしなだひめ」／海潮神代神楽／『大穴牟知命』／諸手船神事／大山祇神社／『わたつみのいろこの宮』／大神神社／高鴨神社／三ツ鳥居／垂仁陵とたぢまもり／大三島の蜜柑畑／鹿〈埴輪〉／鳥〈木製〉／水鳥〈埴輪〉／猪を追う犬〈埴輪〉／銅鐸

『古事記』への叙—古代日本の置かれた環境　神田秀夫……28
古代の碑銘　地域の問題　人口の問題

『古事記』の神と人—作品鑑賞　神田秀夫……36
『古事記』の形態　いざなき・いざなみ神話　高天原神話の謎　いわゆる出雲神話
わたつみの宮の物語　中巻の伝説—皇室の初期　下巻の伝説—大古墳時代

大和と出雲　黛　弘道……76
出雲の神話　出雲の服属

●図版特集●
神事と芸能　小笠原恭子……85
久米舞／倭舞／細男舞／人長舞／神宮祭祀〈大祓〉／青柴垣神事／和布刈神事／神を送る／湯立の神事／豊作をねがう／神懸りの神楽／江戸神楽／高千穂夜神楽

『古事記』の芸能と歌謡　小笠原恭子……92
古代芸能と『古事記』『古事記』の歌謡物語

●図版特集●
呪術の世界—縄文時代　坪井清足……109
豊かな女性像／縄文時代のムラ／華麗な縄文土器／巻貝型の土器／ツチノコがついているランプ／鹿角製指揮棒／角製の漁具／縄文時代の耳飾／めずらしい形の石器

●図版特集●
豊饒への祈り—弥生時代　坪井清足……114
銅鐸の絵画／銅鐸の鋳型／高床の米倉／石と貝でつくった稲刈用具／鋤と杵／水差形の弥生土器／三種類の金属製武器と武器形祭器／死者にそえられた銅剣／弥生時代の鎧

●図版特集●
装いの系譜　坪井清足……120
貝製腕輪から玉製腕輪へ／櫛／勾玉／鏡／鹿と猪

古代人の生活と文化　坪井清足……124
日本文化の原点　農業の発展と古墳

日本美の原点　坪井清足……136
縄文造形の美　弥生土器の美しさ　支配者の権力誇示と美

●図版特集●
大王の権威——古墳時代　坪井清足……149
倚子に坐った巫女／大王陵の連鎖／庶民の群集墓／古式古墳の石室／古墳の葺石と埴輪列／カラフルな死者の奥津城／巨石を使った石室墳／緑と青の首飾／石製模造品／玉製の小箱／カラフルな玉類／金製耳飾／家をつけた刀の柄頭／鉄盾／頭椎の大刀／龍首飾りの柄頭／眉庇つき冑／甲冑に身をかためた埴輪／卑弥呼が魏から贈られた鏡／七鈴鏡／唐草飾の杏葉／飾鞍／飾馬の埴輪

●図版特集●
沖ノ島の神宝——航路の安全を祈る　坪井清足……160
沖ノ島祭祀遺跡／細かい文様の鏡／垂飾のある金具／迦陵頻迦文の馬飾／龍首形の旗ざおの金具／琴の雛形／金銅製祭祀用容器／機の模型／紡織機のミニチュア／多量生産された祭具

『古事記』外伝　神田秀夫……164
神話を見る『風土記』の眼　伝説・説話を見る『風土記』の眼

国家の成立と史書の編纂　黛　弘道……176
王統譜の成立　『帝紀』と『旧辞』の編集　「記紀」の成立

●図版特集●
古代の交通　黛　弘道……189
沖ノ島全景／滑石製舟形／沖ノ島の位置図／船の壁画／大船埴輪／明石海峡と五色塚古墳／住吉大社／大和川／船形埴輪／竹内峠／木津川／淡海の海〈琵琶湖〉／不波関／愛発関／函石浜の景／神明山古墳／丸木船形埴輪／走水の海／内裏塚古墳／霞ヶ浦遠望／壁画の船／峠の祭祀遺物／足柄の御坂〈足柄峠〉／碓日の坂〈碓氷峠〉／宇治橋断碑／船に乗る人物／瀬田の大橋／平城京朱雀大路と側溝／平城京東三坊大路の側溝／河川と都市計画／過所木簡／駅家関係の木簡／荷車の轍／埴輪の馬

氏姓の再編成　黛　弘道……200
允恭朝の盟神探湯　氏と姓　天智朝の対氏族策　八色の姓の制定

『古事記』関係略年表　神田秀夫……213
『古事記』皇室系図　神田秀夫……214

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

凡例

1　古典文学の珠玉の名作を立体的に構成した本シリーズでは、その内容をさらに意義づけるため、その部分の執筆者が各図版の解説にあたったが、それ以外の場合は、とくに解説の末尾に氏名を付記した。

2　本巻の仮名づかいは、原則として現代仮名づかいによった。古文の引用については、歴史的仮名づかいを原則としたが、必要に応じ原本通りとした部分もある。特殊な美術・歴史用語の引用などについては原本通りとした。

3　参考文献を各部分の章末に一括して注記し、読者の便をはかった。

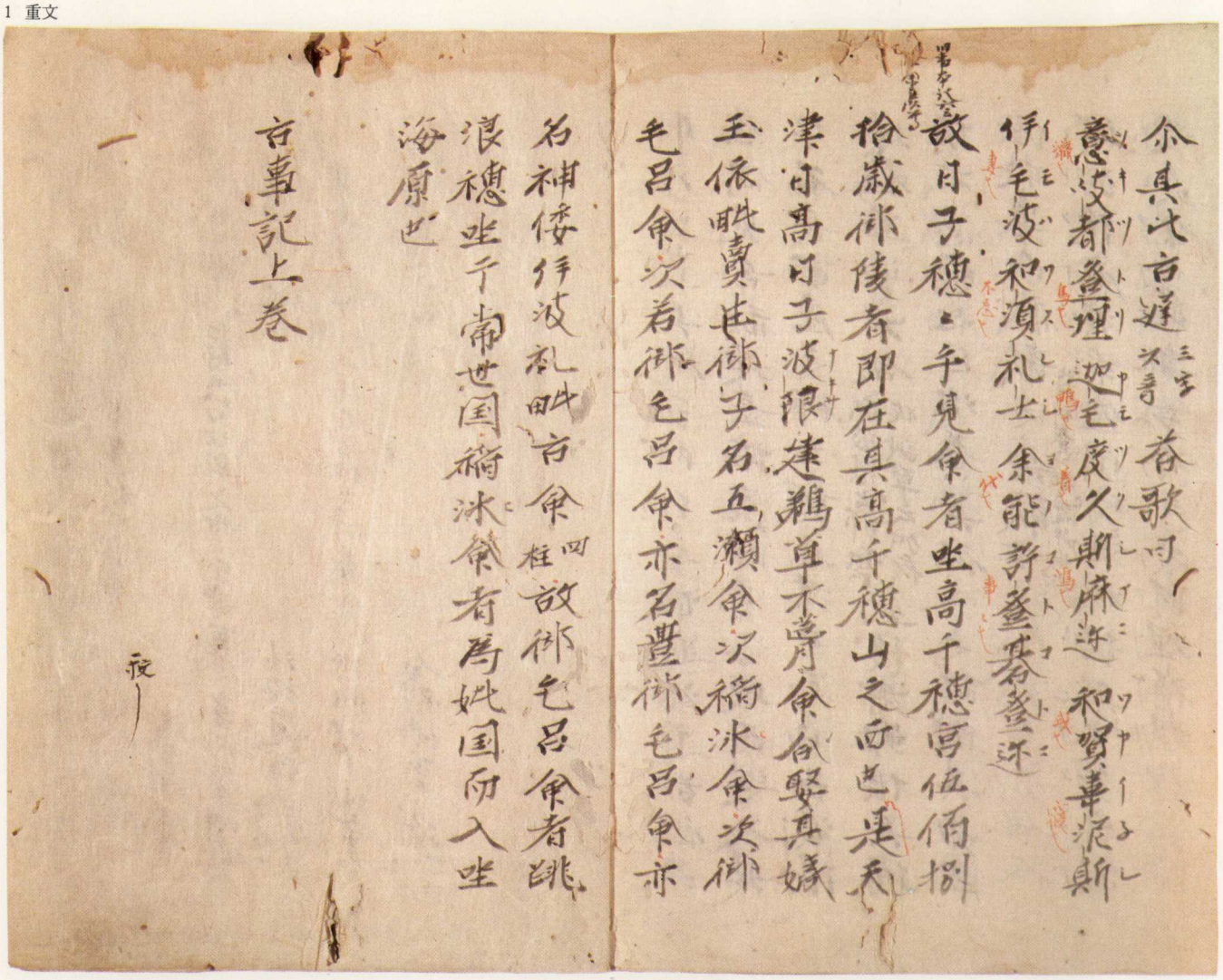
4　各図版に添記した国宝・重文・史跡のうち、重文は重要文化財、史跡は国指定史跡の略である。

5　本巻の図版写真および資料の収集にあたっては、その所蔵者・管理者・著作権者・提供者・撮影者など、関係者各位のご好意とご協力を賜った。

〈第一巻・執筆者〉
武蔵大学教授――神田秀夫
奈良国立文化財研究所長――坪井清足
学習院大学教授――黛　弘道
武蔵大学教授――小笠原恭子

〈装幀〉
後藤市三

〈レイアウト〉
宇喜多邦嘉
樋口英男



春瑜本『古事記』・釈文

尓(しか)れ其の比古遅(ひこぢ)答へたまへる歌に曰く、意岐都登理(沖つ鳥)迦毛度久(鴨どく)斯麻迩(島に)和賀韋泥斯(わがゐ寝し)伊毛波和須礼士(妹は忘れじ)余能許登碁登迩(世のことごとに)。故(かれ)日子穂々手見の命は高千穂の宮に坐(いま)すこと伍佰捌拾(五百八十)歳、御陵は即ち其の高千穂の山の西に在り。是(こ)の天津日高日子波限(なぎさ)建(たけ)鵜草(うがや)不葺命合(葺不合命の誤、ふきあへずのみこと)、其の姨(をば)玉依(たまより)毗売(びめ)に娶(あ)ひまして生める御子(みこ)の名は五瀬の命、次に稲氷(いなひ)の命、次に御毛呂(みもろ)、御毛沼＝みけぬの誤、以下おなじ)、次に若御毛呂の命、亦(また)の名は豊(とよ)御毛呂の命、亦の名は神倭(かむやまと)伊波礼毗古(いはれびこ)の命、四柱。故、御毛呂の命は浪の穂を跳(ふ)みて、常世(とこよ)の国に渡り坐(ま)し、稲氷の命は妣(はは)の国と為(して海原(うなはら)に入り坐(ま)し也(き)

古事記　上巻

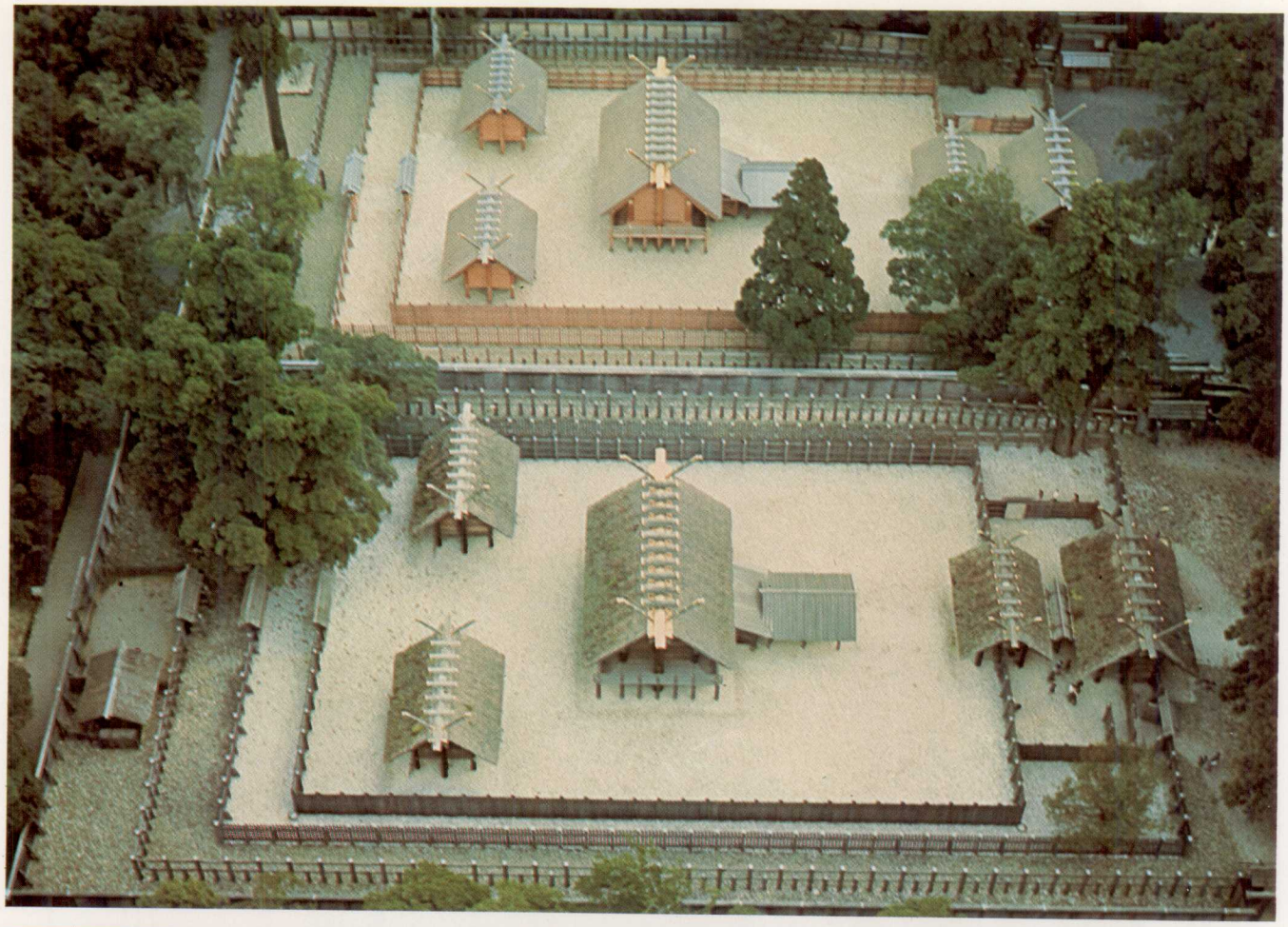
1　**春瑜本『古事記』**——道果本(どうかぼん)を先がけとする，いわゆる伊勢本系『古事記』には，道祥(どうしょう)本と春瑜(しゅんゆ)本とがある。ともに上巻だけ。春瑜本は道祥本を直接写したもので，応永33年(1426)書写。春瑜の自筆と認められる。古典保存会の複製本がある。この本は一度捨てられたらしく，御巫清直(みかんなぎきよなお)が，ある日，門前に来た屑屋の反古(ほご)の中から見つけだしたと伝えられ，御巫清白氏の奉納本となって現在に至っている。道祥本を補完する意味でも，もっとも重要な伊勢本である。本図は上巻末の部分。袋綴装。縦28.8cm　横18.8cm／三重県・神宮文庫

2・3　**伊勢神宮**――内宮の正殿(2図)と，空から見た内宮の側面(3図)。建築様式は神明造(しんめいづくり)。『日本書紀』によれば，垂仁(すいにん)天皇紀25年，皇女倭姫(やまとひめ)の命(みこと)が，祭神天照大神(あまてらすおほみかみ)の神託を受けて，ここに社を建てた。皇室は代々，この倭姫のような未婚の内親王を斎宮(さいぐう)として派遣し祭祀にあたらせたが，増賀上人(ぞうがしょうにん)・西行法師のような仏教徒の参詣も伝えられ，江戸時代のお伊勢参りの大波のように，民間信仰の聖地となる力を長くもちつづけている点に，もっとも重要な伊勢神宮の意義がある。三重県伊勢市宇治館町。

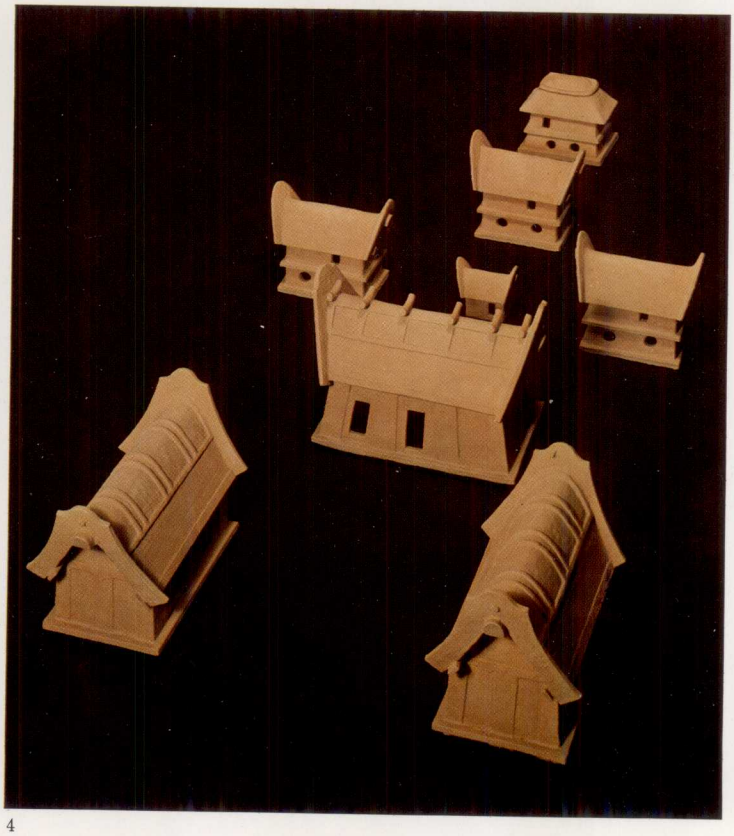
4　**家の埴輪**――配列してみると，古代の屋敷，即ち，敷地(宅地)のもようが再現される。神宮の社殿配置と，比較してもみられる。社(屋代)もまた，人のいますがごとく配置されたものだった。群馬県赤堀茶臼山古墳出土品模型。／大阪府教育委員会

5　**家屋文鏡**――4棟の家屋を図柄とし，3棟は屋根が入母屋(いりもや)風で，それぞれ高床・低床・竪穴の住居をあらわし，高床のは左手に手すりのついた梯子(はしご)か階段が見え，露台らしいものも見える。画面を斜めに横切っているのは，貴人にさしかけるきぬがさらしい。残る1棟も右手に梯子が見えるのは，高床の倉庫のようである。4棟とも屋根は，破風(はふ)の突端が千木(ちぎ)になっている。家のあいだには樹が茂り，屋根には鳥がいる。奈良県北葛城郡河合町佐味田宝塚古墳出土。4世紀。／宮内庁書陵部

3



5



4

6　**五色塚と淡路島**――近景は神戸市垂水(たるみ)区。中央に見える盛土が五色塚。明石海峡に面し，前方後円の全長197.5m。表土を剝(は)いで，築造当時の，葺石(ふきいし)で覆われた墳丘面を露出する作業が，前方部の方からおこなわれた。遠景が淡路島。「かよふ千鳥のなく声に幾夜ねざめぬ須磨の関守」の須磨は，わずかに5km。淡路島は，いざなき・いざなみ神話の発祥地。

6

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

7 **珍敷塚古墳壁画**——福岡県の珍敷塚(めずらしづか)の石室に描かれたもの。右端の蝦蟇(がま)をあらわす図様は，高句麗(こうくり)古墳の壁画の月をあらわす蟾蜍文(せんじょもん)の移植といわれ，左端の舟の舳(へさき)の鳥は道案内の鳥で，上の円形は太陽をあらわし，死者の霊魂を船に乗せて，常世(とこよ) の国へみちびいているところで，左端の方は南方系の図柄だといわれる。中央の蕨手(わらびて)文様が何か，まだわからない。福岡県浮羽郡吉井町。

8

9

8　**宍道湖**――近景は南岸，玉造(たまつくり)の町。遠景に島根半島が浮かんでいる。宍道湖(しんじこ)は，太古は東西の海に水面がつらなり，島根半島は島だったと伝えられ，『出雲国風土記』に国引きの神話がある。島根県。

9　**佐陀神能**――島根県の佐太神社では，神座の莫座薦（ござむしろ）を敷き替える御座替祭(９月24日)の翌日，七座(しちざ)の神事とよばれる古風な神事舞と，記紀神話などに取材した神能（役目能ともいう）が奉納される。この佐陀神能(さだしんのう)が，ひろく中国地方一帯にひろまり，出雲神楽と称される神楽の一系統を形づくった。本図の「大社」は，大国主命が一族を従えてあらわれる能に材を得た曲。島根県八束郡鹿島町・佐太神社。

（解説・小笠原恭子）

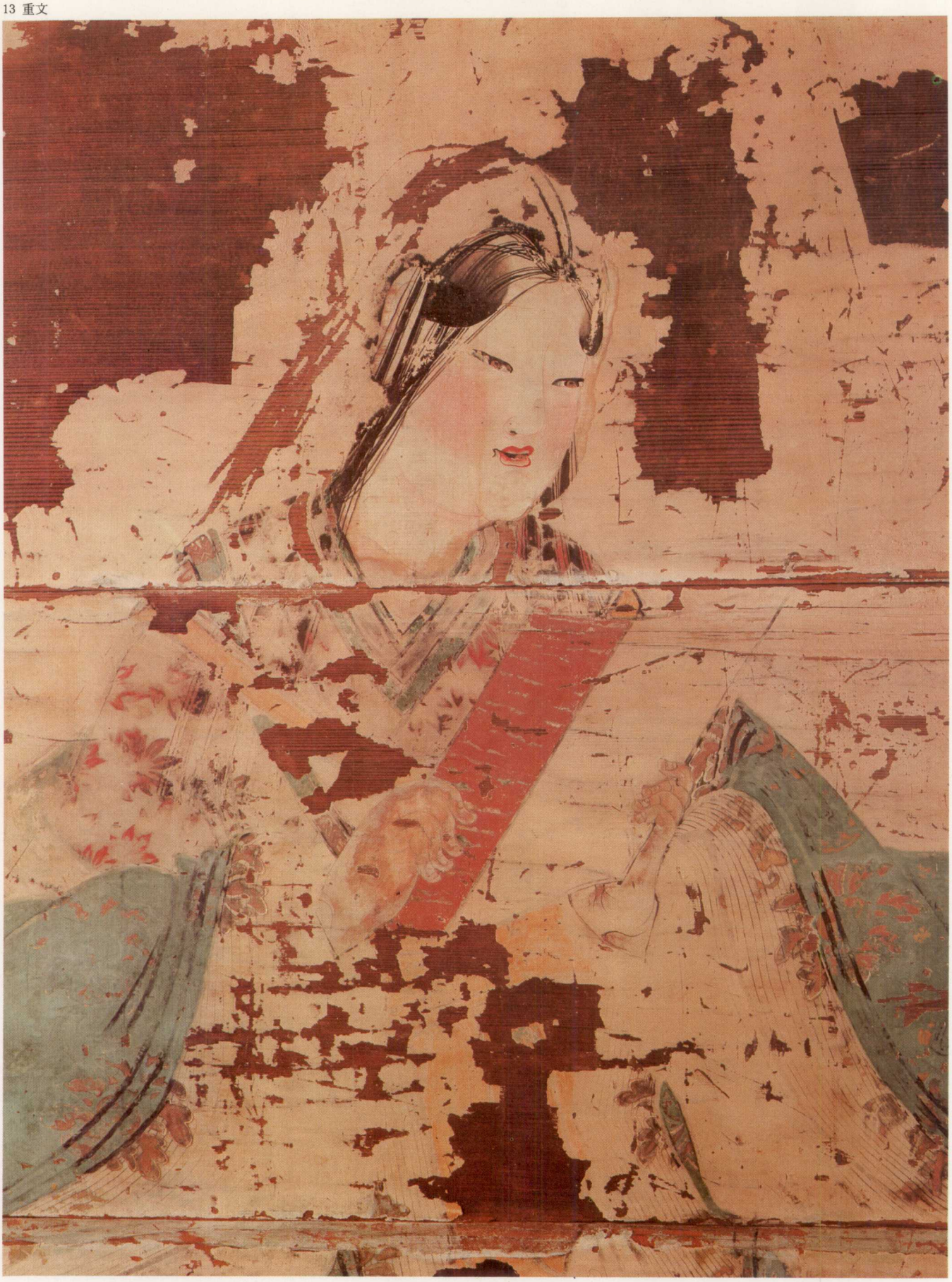
10　**出雲大社**――大社造（たいしゃづくり）の建築様式。天の下造らしし(所造天下)大神大なむちの命(みこと)を祀る，出雲神話の聖地。大なむちの命は『古事記』の大国主の神。民間信仰の大黒(だいこく)さまと結びつき，農民の福の神。今は縁結びの神。旧暦10月を神無月(かんなづき)というのも，全国の神々が出雲に集まり，各地方ではおるすになるからと伝えられ，出雲では神在月(かみありづき)という。島根県簸川郡大社町。

11　**八重垣神社**――すさのをの命・くしなだひめの命・大なむちの命・青幡(あをはた)さくさひこの命を祀る。「八雲立つ出雲八重垣」の歌によって名づけられたらしい。島根県松江市草野。

12・13　**「すさのをの命」と「くしなだひめ」部分**――八重垣神社本殿の，胴板に描かれた壁画の部分図。すさのをの命が，八俣(やまた)のをろちを退治して，くしなだひめを娶(めと)ったという神話にもとづき描かれたもの。12図はすさのをの命，13図はくしなだひめをあらわしている。筆者は9世紀の巨勢金岡（こせのかなおか）だという伝説がある。金岡は大和絵の祖。／島根県・八重垣神社

重文 12

13 重文



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com